

平成30年度 大阪借星学園高等学校 評価報告書

1 めざす学校像

人(生徒)は皆、星であり、生徒一人ひとりの個性を大切に、かけがえのない存在としてその可能性を伸ばし、鍛えていく。生きる力を養う教育、個性を大切に教育、共生教育。

- ・常に教務の研鑽に努め、生徒一人ひとりの学力向上を図る。
- ・生徒の個性と人権を尊重し、全人的な教育を実践する。
- ・学園内の整備と美化に努め、より充実した教育環境を提供する。
- ・進学・就職など、卒業後の生徒の進路を全力でバックアップする。
- ・保護者の方々の意見を尊重し、学園運営に反映させる。

2 学校教育自己診断における結果と分析[平成30年11月 実施分]

実施対象は全学年生徒、保護者とした。回答は無記名、質問はアンケートと自由記述で実施した。保護者の回答率は、昨年度と同様に95%と高かった。肯定的と捉えることができるAとBの和がほとんどの項目で7割以上に達しており、8割・9割以上の回答も増えてきている。また、生徒の回答についても肯定的回答がほとんどである。しかしながら、保護者に比べると満足度は決して高いとは言えない。生徒からの意見を精査し、更なる向上に努めなければならない。

回答率(回答数/在籍数)

生徒 1年:98%(328/333) 2年:99%(394/397) 3年:98%(423/430) 合計:99%(1145/1160)

保護者 1年:98%(325/333) 2年:91%(360/397) 3年:96%(412/430) 合計:95%(1097/1160)

※学校関係者評価委員会からの意見

【平成30年7月27日(金)】

・生野区の子供たちの成績が低いと聞いています。基礎学力の強化が必要だと感じています。小学校では、4、5年生ぐらいから荒れてきているようです。目標を持たせることが必要だと考えています。(例:タクシーはなぜ動くのか?→行き先があるから)

・新入生全員に母校へ「里帰り訪問」を実施したり、イベント前にはPTA(保護者)が100名以上も来てくださって、生徒たちと一緒に清掃をしている学校もあるそうです。

・長男から含めると6年間お世話になっています。兄の時も、担任の先生が進路決定まで本当に良く面倒を見てくださり、感謝しています。弟は現在3年生です。担任の先生は、子供の夢をしっかりと聞いてくださり、一緒になって考えてくださっています。

・パンフレットなどに、卒業生がどんな所で働いているかなどを掲載していても良いのではないのでしょうか。

【平成30年11月30日(金)】

・1年生の授業での様子を授業担当者や授業巡回をしている先生方から聞き、今年度、入学してきた生徒が落ち着いて学校生活を送っていることがよく分かります。また、今年度の取り組み内容の中間報告を聞き、生徒指導部や進路指導部など、どの部署も順調に進んでいることが分かりました。

・今年の進学面について、AO入試や公募制推薦入試の結果が厳しかったとお聞きしましたが、借星と同じく他校でも今年は厳しい状況だと聞いています。

・遅刻(時間を守る)ということからきちんとしていき、子どもたちの規範意識を持たせることが大切だと考えます。

・放課後、以前はクラブか講習のどちらをするか決められていました。しかし、次年度から文理進学コースという新しいコースができ、講習の内容や運用の仕方を工夫することで、生徒たちが選択できるようになることは良いことだと思います。

・進路決定率が100%になれば、生徒たちの満足度も上がると思います。また、そうなることを望みます。

【平成31年3月8日(金)】

・入学前に実施している合格者説明会は非常に良いことだと思います。身だしなみセミナーや高校生活の心構えを事前に中学生に話しておくことによって、義務教育ではないことを意識させ、スムーズに高校生活に入っていくことができると思います。

・大学4年生になった息子の口から「学校のルールを守れないなら、社会に出てもやっていけない」という発言を聞いて、家族で借星に通わせていただいていた良かったなと話しています。

・私は小学校や中学校の先生方と話す機会があるのですが、先生方が潰れてしまうケースもあると聞いています。

3 本年度の取組内容及び自己評価

	本年度の重点目標	具体的な取組み内容	評価指標	取組内容の自己評価
取組 ①	学力の充実と進路希望の実現	<p>①授業を確立し、生徒達の理解度や進捗状況を丁寧に確認し、「わかりやすい授業」をする。授業巡回を通して、学年から教科主任への連絡を密にする。また、担当者同士の連携を密にし、生徒達の理解度や進捗状況を確認していく。教科会議において、授業内容と生徒たちの達成度を確認する。</p> <p>②生徒の進路実現のため、個々に応じた対策講座やガイダンスを実施していく。また、習熟度別の放課後講習、夏期講習を実施し、柔軟に対応していく。</p>	<p>①学校教育自己診断による、「授業はわかりやすい」の項目での肯定的回答70%以上</p> <p>②平成31年度入試において、関関同立は過去最高(44名(昨年度)⇒50~60名)、産近甲龍は(53名(昨年度)⇒70名)、摂神追桃は(91名(昨年度)⇒100名)とする。</p>	<p>①担当者同士の連絡を密にしていけることはできてきているが、教科として全体の把握まではいたっていない。学校教育自己診断による、「授業はわかりやすい」の項目での肯定的回答は64%だった。1年生が67%、2年生が63%、3年生が64%であった。次年度については、担当者だけでなく、教科として生徒達の理解度や進捗状況を確認していき、丁寧な指導をしていく必要がある。また、定期考査や模試の数値を教科として把握していき、実力向上に尽力していく必要がある。</p> <p>②残念ながら、数字的には未達であったが、定員厳格化のあおりを受けた割には、関関同立は20台、産近龍は50台、摂神追桃は100弱という最低ラインが確保できたことは健闘と言えるのではないかと。総合・スポーツからの実績上昇も今後に向けた良い兆しといえる。年内の推薦系入試については、過去最高を記録できたが、滑り止まらなかった生徒が15%も出てしまった。次年度からは、担任への情報や指導を充実させ、自クラス生徒の進路決定にさらに熱心に取り組んでいく必要がある。</p>
取組 ②	生徒指導の充実	<p>①頭髪違反率を低くすることを、各クラスが意識していくようにする。</p> <p>②8時30分に自教室で着席しておくことを、習慣化していく。</p> <p>③毎日の学校生活の中で、生徒の規範意識が高まるよう、全教員が細かな点まで確認していく。</p> <p>④交通ルールやマナー、モラルに対する意識づけを日頃からしていく。</p> <p>全教員によるきめ細かい積極的生活指導・マナー(モラル)指導を推進し、生徒の規範意識を向上させ、問題行動の未然防止に努める。特に、「時間を守る」「ものを大切に」「他者を尊重する」に重点的に取り組む。</p>	<p>①毎月の頭髪違反率15%未満</p> <p>②毎月のSHR遅刻率1%未満</p> <p>③懲戒処分者数を昨年度より減らす</p> <p>④外部からの苦情を0に近づける</p>	<p>①違反率7.0%(昨年度8.0%)</p> <p>②SHR遅刻率0.5%</p> <p>③懲戒処分者数のべ62名(昨年度90名)</p> <p>④外部からの苦情34件(昨年度36件)</p> <p>外部からの苦情のほとんどが通学路での「広がって歩いている」というものである。次年度については、登下校指導では、苦情の多いポイントを重点的に人員配置する。また、交通ルールや電車内でのマナー、注意を受けたときの態度など、具体的に指導していく必要がある。</p>
取組 ③	学校組織運営の活性化	<p>①奨学金その他への対象生徒、保護者へのわかりやすい説明の徹底と丁寧な対応を行う。</p> <p>②中学校訪問に対しては、学期毎に1回訪問形式から、エリアによっては2回3回と複数回訪問する形式に変更し、より効果のあるエリアを重点的に訪問強化していく。結びつきの強い中学校を1校でも多く増やしていく。</p> <p>③塾訪問に対しては、広範囲に広げすぎたので、遠方の1件よりも近場の2件という考えで、より地元密着を心がける。</p> <p>④本校の取組み内容と変化を広報資料に反映させ、中学校や塾にアピールしていく。年度内にも追加資料を作成していき、タイムリーに魅力を伝えていく。</p>	<p>①学校教育自己診断による「学校は、奨学金制度についての情報を知らせてくれる」の項目での肯定的回答70%以上</p> <p>②中学校への訪問件数1000件</p> <p>③塾への訪問件数4000件(但し遠方から近隣への集中化)</p> <p>④専願受験者で300名以上を確保する</p>	<p>①学校教育自己診断による「学校は、奨学金制度についての情報を知らせてくれる」の項目において、肯定的回答が76%であった(昨年度83%)。奨学金の利用者が今年は非常に多かったが情報伝達は適切に行えたと思う。応募資格や内容が複雑で理解しにくく、保護者からの問い合わせがあったので、今後は、配布プリントの表現を解りやすくする必要はある。</p> <p>②目標1000件に対して1800件</p> <p>③目標4000件に対して4600件</p> <p>訪問件数は達成できたものの、受験結果はエリアにより増減の差が大きくてきている。よって、次年度からは、よりエリアマーケティングをしっかりとしていく必要がある。</p> <p>④専願受験者278名と目標の300名には未達となった。全受験者数は昨年に対して減少したものの、訪問活動強化により、専願受験者数は昨年を上回ることが出来た。次年度も中学生の人数が減少していくので、より専願で受験者を確保できるよう、減少した地域の営業強化が必要である。</p>